

第一章 グーテンベルク以前の書物の世界

- 1 ヨーロッパ中世・写本の時代……………10
書物の製作は修道院で／大学の中に筆写工房が／その他の筆写工房
- 2 書体の重要性……………15
カロリングの小文字／ゴシック書体／さまざまな書体
- 3 木版印刷の出現……………18
カルタと聖像版画／木版本

第二章 活字版印刷術の発明——一五世紀半ば

- 1 グーテンベルクの生涯……………24
グーテンベルクについての常識／グーテンベルクの出生／その青少年時代
二〇代のグーテンベルク／シュトラースブルク時代
- 2 活字版印刷術の発明と初期印刷物……………29
救済用手鏡の製造／新たな秘密の事業／シュトラースブルクでの印刷事業
活字版印刷術の発明／東洋における活字版印刷／グーテンベルク方式の優れた点
グーテンベルク方式の具体的な特徴／マインツへの帰還／『ドナトゥス』の印刷は続行

3 活字版印刷術の完成と聖書の印刷……………38

- 筆写本と印刷本／聖書の印刷へ向けて／グーテンベルクとフストの出会い
フンブレヒト印刷工房の設立／『四十二行聖書』の印刷——発明のクライマックス
聖書製作の工程／最高の完成度を示した『四十二行聖書』／フスト、グーテンベルクを提訴
- 4 フスト&シェッファ―印刷工房の発展……………52
グーテンベルクの遺産としての「フスト&シェッファ―印刷工房」
シェッファ―とはどんな人物か？／『マインツ詩篇』の出版／その他の作品
 - 5 グーテンベルクとその後の活動……………59
『カトリコン』の印刷／巨匠の頭上に垂れこめる暗雲
印刷物による最初のプロパガンダ作戦／マインツにおける熱い戦い
グーテンベルクとその弟子たちの消息／エルトヴィルへの亡命
廷臣グーテンベルク／その晩年と死／グーテンベルクへの賞賛のことば

第三章 活字版印刷術の伝播——一五世紀後半

- 1 ドイツの他の都市への伝播……………72
その後のフスト&シェッファ―印刷工房／バンベルク／シュトラースブルク
ケルン／バーゼル
- 2 ヨーロッパ諸地域への伝播……………80
ローマ／ヴェネツィア／パリ／その他の地域への伝播
- 3 この時代の代表的な印刷・出版業者……………87
ヨハネス・メンテリン（一四一〇—七八）

ハインリヒ・エッゲシュタイン(二四一五/二〇一?)
ニコラ・ジェンソン(二四二〇—八二)

ウイリアム・カクストン(二四三—九二)

アントン・コーベルガー(二四四〇/四五—一五二三)

バルテルミー・ビュイエ(?)—一四八三)

第四章 一五世紀末から一六世紀前半の出版業

1 ルネサンス人文主義と出版業者……………104

ルネサンス人文主義と出版業

ヨハネス・アマールバツハ(二四四三/四五—一五二三)

ヨーハン・フローベン(二四六〇—一五二七)

人文主義出版業者アルドゥス・マヌティウス(二四五〇ころ—一五一五)

アルドゥス、ヴェネツィアで印刷・出版業をはじめ

アルドゥス工房二〇年の歩み/アルドゥス工房を支えた学者たち

アルドゥス印刷工房と活字

パリの出版産業を牛耳った資本家ジャン・プティ

国境を越えた出版業者の活躍——ジュンタ家の場合

フランスの人文主義者トリートと活字父型彫刻師ギャラモン

フランスの代表的な人文主義出版業者エティエンヌ一族

2 宗教改革と印刷物の普及——ドイツを中心に……………127

ルターの改革思想の急速な普及/ドイツ語印刷物の増大

ヴィットテンベルクの繁栄/ルターによる聖書の翻訳とその出版

カトリック側の聖書翻訳と出版/印刷物の普及と書籍行商人の活躍

第五章 一六一—一七世紀の出版業

1 印刷術とヨーロッパ各国語の形成……………138

中世から近世への移行と各国語の形成/ラテン語のゆっくりとした衰退

イギリス及びスペインにおける事情

2 この時代の書籍取引……………143

書籍の発行部数/書物の輸送と販路

この時代の取り引き方法——書物の交換と為替手形/書籍市場の組織化

3 書籍取り引きの場としての書籍市……………147

大市から書籍市へ/リヨン書籍市

4 フランクフルト書籍見本市の繁栄……………149

大市の伝統/書籍市の発達/ヨーロッパの書籍センター

フランクフルトの本屋街/書籍市目録の発行

フランクフルト書籍市での書籍取扱量の推移/フランクフルト書籍見本市の衰退

5 カトリック・ルネサンス(反宗教改革)時代の出版業……………158

反宗教改革の動き/教会及び国家による検閲と規制の強化

帝国書籍委員会の専横/出版業におけるカトリック・ルネサンス

アントウェルペンの大出版業者クリストファー・プランタン(二五二〇—一八九)

五か国語聖書の編纂及び刊行/黄金時代のプランタン社(二五六八—七六)

その後のプランタン／プランタンの後継者ヤン・モレトウス（一五四三—一六二〇）
モレトウスの息子たちの活動とその後

6 オランダ出版業の発展とその他の国の出版業の低迷…………… 171

オランダにおける出版業のはじまり／エルゼヴィール家の繁栄
オランダの出版業発展の一般的状況／一七世紀半ば以降の出版不況の時代
この時代のドイツの書籍取引

第六章 一八世紀の出版業

1 ライプツィヒ書籍見本市の興隆…………… 180

フランクフルトの衰退とライプツィヒの興隆／初期のライプツィヒ

ライプツィヒ書籍見本市の発展／プロテスタント書籍の出版

2 啓蒙主義の影響と文学市場の成立——ドイツの場合…………… 185

啓蒙主義の影響／道徳週刊誌の普及／啓蒙主義の第一世代

読者としての婦女子の登場／啓蒙主義の第二世代の登場と文学市場の成立

読書クラブと貸出文庫

3 近代的書籍出版販売への転換——ドイツの場合…………… 193

統一的書籍市場の崩壊——南北への分裂／交換取引制度の廃止

帝国書籍業者の反応／翻刻出版への領邦国家の保護政策／近代的書籍取引への転換

本書執筆に当たった参考・引用文献・資料／図版の出典…………… 198

あとがき…………… 200

第一章 グーテンベルク以前の書物の世界